



だれかに支えてもらっていること だれかを支えていること

校長 野田 恵美

10月20日に地域のあいさつ運動がありました。門にはたくさんの地域や保護者の方が立ち、子供たちに「おはようございます」「行ってらっしゃい」「がんばってね」と笑顔で声をかけてくださいました。そんな声に励まされ、いつもは少し元気のない月曜日の子供たちも「おはようございます!」と明るく返していました。また、生活委員会がこの活動とコラボレーションしていますので、登校した委員が次々とあいさつ運動に加わっていました。そんな光景を見ながら、「城山小は本当に多くのみなさんに支えていただいているのだな」と改めて感じました。

人は知らず知らずのうちにだれかに支えられていたり、気がつかないうちに誰かの支えになっていたりすることがあります。

9月に行われた地域の行事「わくワークショップ」では、城山小からは150人を超える参加がありました。みなさんに楽しんでもらおうと、地域の方々は工作の材料を切ったり、印刷したり、説明の紙をつくったり、と見えないところでコツコツと準備を進めてくださいました。

高学年の委員会活動は、当たり前のようにやっていますが、学校全体を支えているのです。給食委員は給食後の食器や食缶、牛乳などをコンテナ車に取りに来る前に整頓します。牛乳パックを分別することはその後の処理をする人達を支えています。図書委員はスムーズに貸し出しができるように朝と帰りに図書室の準備をします。本が大好きな子の大切な時間を支えています。美化委員はごみ倉庫の整頓を、体育委員は・・・と、あげ始めたら数え切れないくらいです。

尾張旭市は地震や大雨の被害にあった石川県輪島市と交流しています。輪島市には9つの小学校がありますが、被災によっていくつかの学校が合同で授業や活動を行っているところがあります。互いに学校数が同じということもあり、「学校同士で交流を図ろう!」となりました。児童会の人々が輪島市の河原田小学校のみなさんにメッセージカードをつくってくれました。11月に尾張旭市長さんが届けてくれるそうです。そんな取組も小さな心の支えになるのではないのでしょうか。

また、10月26日に予定されている校区社会福祉協議会主催の「一人暮らし高齢者とのふれあい茶話会」という地域行事で、お手伝いボランティアを募集したところ、5人の人が応募してくれました。「習い事が終わってからかけつけてもいいですか?」と聞いてくれた人もいて、その気持ちがとても嬉しかったです。さらにボランティアができなくても「ティーマットづくり」に参加した人も30人程いました。お年寄りと一緒に話している場面、美味しいと思うもの、かわいらしいキャラクターなどが描かれており、どれも相手のことを思いながら心を込めて描いたことが伝わります。それを使う方はきっと思わず笑顔になるでしょう。



今、できることを考えて、行動にうつしたことが、「どこかでだれかの支えとなっているかもしれない」...そんな風に思うと、少し嬉しくなりません。そして、もし支えてもらっていることに気がいたら「ありがとう」の気持ちを伝えたいものです。

【保護者のみなさまへ お知らせ】

◆ 学校保健委員会「レジリエンスを高めて しなやかな心を育てよう」

11月19日の6時間目に、学校保健委員会が開かれます。5・6年生の児童と城山小保護者の方が対象です。今年は本校の養護教諭と保健主事の教諭が中心となり、「レジリエンス(立ち直る力)」について、ロールプレイングやリラクセス法などを取り入れながら学んでいきます。失敗や困難に合ったときに「立ち直る力」、「しなやかな心」を少しずつ育てていくことをねらいとしています。

11月7日までに参加申し込み書(お子さんを通じて配布済)にご記入の上、担任にご提出ください。

